

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
「人間性豊かで実践力のある児童の育成」 めざす児童像 たくましく かしく たくましく	自ら考え、正しい行動ができる子 確かな学力の定着と人間力の育成 個性を發揮し、心豊かでたくましい子どもの育成



調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <p>算数A算数Bについては、県平均と比べると正答率が高い。 国語A国語Bについては、県平均と比べると正答率は低い。 算数Aの「数量関係」領域については、9割程度理解できているが、「図形」領域では、課題がある。 国語Bの「話す・聞く」領域は高いが、「読む能力」領域は、課題がある。</p> <p>県</p> <p>理科の正答率は県平均を上回ったが、社会は県平均と同程度、国語、数学は正答率が県平均を下回った。 国語は、読む能力は高いが書く能力は低く、文章記述では無解答が多い。 社会は、歴史を除いて基礎的な知識は身につけているが、根拠をあげて説明することに課題が見られる。 数学は、計算はできているが図形についての知識・理解に課題があり、記述問題では無解答が多い。 理科は、観察・実験の技能は高いが、科学的な思考・表現に課題がある。無解答は少なかった。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>学校の決まりを守っていると答えた児童の割合は県平均よりかなり高い。 あいさつ運動に取り組んでおり、「あいさつ」の項目が県平均より高い。 「落ち着いた学習環境の中で学習できている」の項目が高い。 「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」という項目が県平均より高い。 学校の宿題やテスト直しはよくできているが、授業の予習はほとんどできていない。 読書をしない割合が県より高い、また学校の図書室や地域の図書館を利用する割合が少ない。 平日にゲームを1時間以上する児童の割合は県平均より低い、テレビを1時間以上見る児童の割合は高い。 学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりするのが難しいと思っている児童が多い。 将来の夢や希望をもっている児童の割合が高い反面、何のために勉強するのか自分なりに考えている割合が低い。 「授業の始めに学習のねらいや目標が示されていた」の項目は高いが、「授業の終わりに、学習のまとめや振り返りをしていた。」の項目は低い。 数学、社会、理科の学習は将来役に立つと感じているが、国語は役に立つと感じている児童の割合が少ない。</p>



成果と課題	課題に対応した改善方法
落ち着いた学習環境の中で学習できている。 算数・数学が好きな児童の割合は高く、算数の基礎力・活用力は伸びる傾向にある。 読み書きへの関心は高いが、内容を考えながら理解し表現する力に課題がある。 文章で解答する問題に対して苦手意識を持っている児童が多く、無解答率が高い。 家庭学習の時間が十分でなかったり、予習・復習ができていなかったり家庭での学習習慣作りが課題である。 読書をする児童としない児童が二極化が進んでいる。	自分から主体的に学習に取り組む姿勢を育て、将来の夢や希望がもてるようにしたり自己肯定感や自己有用感を育てる。 自分の考えを説明したり書いたりする活動を多く取り入れるようにする。また、学習の振り返りをする時間をもつ。 情報の読み取り・活用・編集などの活動に積極的に取り組みませ、視点や根拠をもってペア学習、グループ学習等を組み入れた授業作りを行う。 全校で音読・視写・日記にめあてをもって取り組んだり、問題解決型の授業を工夫したりして、国語に対する意欲を高め、読解力・表現力の向上につなぐ。 朝学習などで、前学年の復習をしっかりとしたりいろいろな問題に触れさせたりする。(県到達確認テストの活用) 家庭学習の時間や内容、予習・復習の大切さについて児童や保護者に話をし、授業と家庭学習をつなぐ。 おすすめ200冊の取り組みをし、読む本の幅を広げたり意欲を持たせたりする。

取組の検証方法及び検証時期	達成目標(数値目標)
毎月、児童アンケートを行い、学習や生活に対する意識付けを行うと共に自信がもてるようにする。 全学級、国語の授業研究を行い、表現力を高める授業作りを推進する。...2学期末まで 授業評価シートの活用(職員1人1人の振り返り) 「えがおいっぱい高田っ子カード」の取り組み(家庭での過ごし方や家庭学習)...10月 上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。...12月	各教科ともに、「好き」「よくわかる」と回答する児童の割合をあげる。(2学期末80%をめざす。) 国語の課題に対応した手立てを適切に取り入れた授業ができている。 家庭学習の全員提出をめざす。(2学期末100%をめざす。) 高田っ子カード全員提出。家庭学習の時間・読書時間を1学期より10%増。 算数で、前学年の復習プリントを全学年実施し、基礎力をあげる。(2月末までに100%) 算数で、該当学年の単元別到達度テストを全学年実施し基礎・活用の力をあげる。(2月末までに80%)